

音楽科学習指導案

廿日市市立佐方小学校 正木 尚子

- 1 学 年 第5学年
- 2 題材名 日本の音楽めぐり
- 3 教材名 「管弦楽のための木挽歌」 作曲 小山 清茂
「子もり歌」 日本古謡
「八木節」 群馬県・栃木県民謡 編曲 吉田 寛
「田植え歌」 廿日市市民謡（宮内）
「木挽歌」 廿日市市民謡（宮内串戸）
「櫓漕ぎ歌」 廿日市市民謡（地御前）
「音戸の舟唄」 音戸町民謡 編曲 永柴 義昭

4 題材の設定について

本学級は、明るく活発な児童が多い。また、日頃から地域の行事に積極的に参加し、コミュニティ主催の田植えや稲刈りにも多くの児童が参加している。音楽に対しても、色々な活動に積極的に取り組み、朝の会や帰りの会など日頃から音楽活動を楽しんでいる。

「日本のふし」については、第3学年の「うさぎ」、第4学年の「さくらさくら」などの学習から、児童は「日本のふし」の雰囲気を感じ取り、西洋音楽の特徴と異なることに気づくことができた。しかし、児童の多くが日本の伝統音楽について「古い」、「とっつきにくい」というイメージがあることも分かった。そこで、第5学年の「ソーラン節」や「田植え歌」の学習では、動作化を取り入れた歌唱によって楽しく学習し、児童の日本の伝統音楽に対する興味・関心も高まってきている。

さらに、「生き生き学習」(総合的な学習の時間)では、地域の方をゲストティーチャーに迎えて「茶道、華道、俳句、詩吟、尺八、やぐら太鼓」などを体験する学習を行い、児童は日本の伝統文化に親しむとともに、日本の伝統音楽の学習にさらに意欲的になってきている。

本題材では、日本の伝統音楽、特に民謡についての学習を展開する。日本各地の民謡を人々のくらしや情景を思い浮かべながら聴くことで、そこで暮らす人々の思いや願いを感じ取ることができるであろう。その過程で、発声の力強さや、音の重ね方、テンポやリズムの自由さが西洋音楽と異なるということに気づかせ、そのよさを味わわせたい。そして、地元廿日市に古くから伝わる民謡を演奏することで、その中に込められた人々の思いや願いに気づき、民謡に積極的に関わっていけるようになるのではないかと想定し、本題材を設定した。近年の生活様式の変化により、歌われなくなったり、消えていったりしていくものも多い民謡であるが、古来より時代に柔軟に対応しつつ、今も生き続けている我々の心の歌である。

「管弦楽のための木挽歌」は、九州に伝わる民謡のフレーズをベースに、オーケストラに日本のやぐら太鼓や締め太鼓を加えて演奏されており、日本らしさを醸し出している。この曲の主題である、人々に力を与え、広まり、心の中に生き続けるという民謡の持つ生命力を感じ取らせることは、本題材の導入に最適であると考えた。

「子もり歌」は、広く伝えられてきた子どもの労作歌である。歌に込められたつらい労働に対する気持ちや赤ん坊へのやさしい心づかいとを感じ取って欲しい。その中で、陽音階と陰音

階の違い、テンポやリズムの取り方によるニュアンスの違いを感じ取らせたい。

「八木節」の合奏では、「八木節様式」の明確な拍節リズムによる華やかさ、力強さを感じ取らせたい。また、合奏の中でパートごとに旋律を創作させ、曲の中にソロの部分を加える活動を展開していく。

今回「廿日市の民謡」を取り上げる中で、特に労作歌を選択した。どれも、単調で厳しい労働にリズムを取り入れ、能率化を図ったり、みんなで力と心を合わせたりしながら、楽しく仕事に取り組もうと民衆の中で生み出され、歌い継がれてきたものである。学習を通して、古来より地元廿日市の人々が、自然と共に知恵を生かしてたくましく生きてきたことを感じ取らせるとともに、そのような民謡をはぐくんできた自分たちの地域に誇りを持たせたい。

これらの学習経験を基盤として、地域での稲刈りの体験を想起させながら「佐方の稲刈り歌」というオリジナルの民謡を創作させたい。

指導にあたっては、本来民謡が持つ、演奏する人に合う歌い方や、ふし回しをかなり自由に取り入れてきた柔軟性を生かし、「自分たちなりの民謡を演奏していくことができる」楽しさを味わわせていきたい。そのため、労作の動作化を実際に行い、自分たちの動きに合わせてリズムを決めたり、「合いの手」を考えさせていく活動を取り入れ、さらに合奏でも、日本の音階を使った旋律の創作を加える活動を行い、民謡の創作につなげていきたい。これらの活動を通して民謡に積極的にかかわることで、児童が民謡に親しみ、地域への愛着を深めていけるようにしていきたい。

その過程においては、グループで話し合ったり、音を出したり動作化を行ったりする時間を十分確保するとともに、グループの発表の機会を多く設定し、聴き合う活動を通して、お互いの良いところを取り入れ、イメージを広げたり深めたりして高め合っていく場をつくっていきたい。

5 題材の目標

民謡に興味・関心を持つ。

労作歌の特徴を感じ取りながら、演奏やふし作りをする。

仕事の動作に合ったリズムを工夫し、演奏したり身体表現したりする。

日本の音楽の特徴を理解して聴く。

6 評価の規準

	評価の観点	評価の規準
ア	音楽への関心・意欲・態度	・民謡に興味・関心を持っている。
イ	音楽的な感受や表現の工夫	・労作歌の特徴を感じ取りながら、演奏したり、ふしづくりの工夫をしたりしている。
ウ	表現の技能	・仕事の動作に合ったリズムを工夫し、演奏したり身体表現したりする。
エ	鑑賞の能力	・日本の音楽の特徴を理解して聴いている。

7 学習指導計画（全13時間）

次	ねらい	時	主な学習活動	評価	教材	
第一 次	日本の民謡に興味・ 関心を持つ。		・「管弦楽のための木挽歌」を鑑賞する。	ア	↑ 子もり歌 ↓	
			・「子守り歌」を歌う。 ・「日本の民ようと子もり歌」について知る。	ウ エ		
第二 次	労作歌の特徴に気づ き、感じ取る。		・廿日市の民謡を歌う。 ・「八木節」の演奏を聴き、パートを決める。	ア イ ウ エ	↑ 廿日市の民謡 ↓	
			・廿日市の民謡・「八木節」の練習をする。			↑ 八木節 ↓
			・「八木節」に各パートのソロの部分を作 作する。			
			・校内音楽会の練習をする。 (1, 2組合同)			
第三 次	労作歌の特徴を理解 し、創作する。	本 時	・「佐方の稲刈り歌」を創作し、発表する。	ア イ ウ	↓	

8 本時の目標

仕事の動作に合ったリズムを工夫して表現することができる。

9 学習の展開

学 習 活 動	教 師 の 指 導 ・ 支 援	評 価
1 廿日市の民謡を演奏 する。	・ 前時までの学習を想起させながら、楽 しく学習する雰囲気を作る。	楽しく活動しよう としているか。(ア)
2 本時のめあてを確認 する。		
仕事に合ったリズムを考えて演奏しよう		
3 グループで話し合い ながら練習する。	・ 創作した「佐方の稲刈り歌」に楽器を 加えることを伝え、リズムを工夫し、 演奏ができるようにする。	協力して活動して いるか。(ア) 仕事に合ったリズ ムを工夫している か。(ウ)

4 発表する。	<ul style="list-style-type: none">・ 発表する。・ 他のグループの工夫点を見つけ，自分たちの創作に活かしていけるようにする。	他のグループのよいところを見つけようとしているか。 (工)
5 次時の活動内容を知る。	<ul style="list-style-type: none">・ 発表会をすることを伝える。	